

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2019.3.25 No.346 東京・羽村平和委員会発行



銃口を住宅地に向け飛行するのが 常態化していた横田オスプレイ

左上の写真が3月13日で前号で取りあげた機体ですが、これだけではありませんでした。17日の座り込みに11月7日のことを、夜には6月29日のこと、後日3月11日のこと、3月16日のこと、次々に情報がありました。さらに、ということで かなり日常化していたのです。許せません。



2019年3月13日



2018年11月7日

2018年6月29日

2019年3月11日



第120回横田座り込み 175人が参加

3月17日は、第120回の記念すべき横田座り込みでした。10年間、暑い夏も、寒い冬も、一度も休むことなく、座り込みしてきました。皆さんのおかげです。17日は群馬県から、新婦人の会のみなさん、民医連三多摩ブロックの皆さん、辺野古で頑張っている西村さん、175人が参加してくださいました。



オスプレイの機体に劣化ウラン使用 琉球新報より。抜粋。

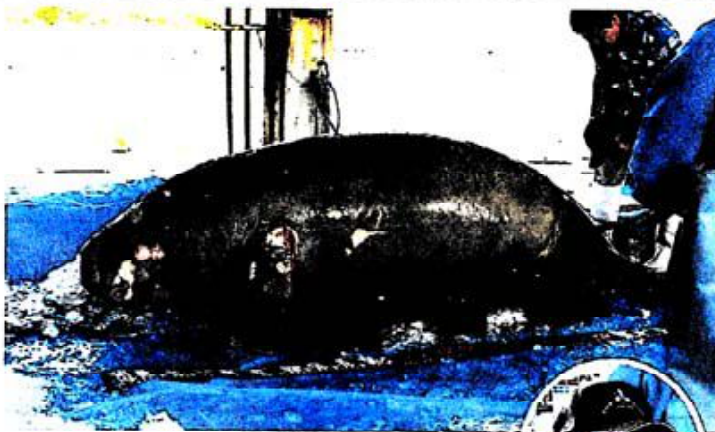
米軍の垂直離着陸輸送機オスプレイの機体に放射性物質の劣化ウランとトリチウムが使われていることが21日までに分かった。米国防研究所（IDA）でオスプレイの主任分析官を務めたレックス・リポロ氏は本紙の取材に対し、オスプレイに使われている劣化ウランの放射能値が自然界の20〜300倍に上ると説明した。

リポロ氏によると、オスプレイの機体のバランスを取る重りとして1基当たり7万8千磅の放射能を持つ劣化ウランが多数使われている。

一方、米海兵隊は本紙の取材に対し、オスプレイの機体に氷が付着しないようにする装置と救命ボートにトリチウムが使用されていることを明らかにした。二重が非常に少ないため、安全だと考えられる」とコメントしている。

新基地建設反対名護共同センターニュース

ジュゴンの死骸に衝撃走る！



平良正男さん

辺野古の藻場を追われ力尽きたか

沖縄本島付近に3頭しか残っていないとされてきた国指定の天然記念物・ジュゴンの死骸が18日、今帰仁村の漁港に上げられ全国に衝撃が走っています。今帰仁村や美ら海財団の担当者の調査によると、このジュゴンは、通称「個体B」で体長約3.6m、体重約500kgのメスでした。防衛局の直近の調査で発見されたジュゴンはわずか3頭で、残りは個体Bの子とみられる個体Cと個体Aで、いずれも行方が分からなくなっています。

今帰仁漁協元組合長の平良正男さん（96歳）は、私は戦前から70年以上も漁業をし、以前8年ほど今帰仁漁協の組合長をしました。しかし、ジュゴンを見たのはこれが初めてです。このジュゴンは辺野古の藻場を食糧にしていたと思います。しかし、新基地建設工事で藻場が壊され、追われるようにこの辺の海まできて餌を探しまわり命が果てたのだと思う。私は辺野古の新基地工事がジュゴンの命を奪ったとみています」と話していました。

安和で「赤土運ぶな」と抗議

今週、名護市安和の琉球セメント棧橋からの埋め立て用土砂の海上輸送に抗議する行動が強められています。20日は那覇市や糸満市などの島ぐるみ会議から100人を超える県民が安和ゲート前で、海上ではカヌーで抗議を続けました。赤土などを積んだダンプカーは、ゲート前で信号が変わるたびに1台ずつしか棧橋に入れず、通常のほぼ半分の土砂しか運搬船に積み込むことができませんでした。



- 「ジュゴンの死骸」の共同センターのSNSの報道に過去最高の数千件の怒りや悲しみのリアクションがあり、謝罪の大きさを物語っています。反応の一部を紹介しましょう。工事を止められない私にも責任がある。辛い。 (女性)
- 本当にひどい姿ですね。ひどいそうつきアベ官邸、アベ自公政権許せん！ (女性)
- どうとう犠牲者がでてしまいました。餌場を奪われては生きていけない。 (男性)
- これは世界に発信すべきです。そもそも米国内には地元で反対運動があり、不可逆的な環境破壊が生じるころには基地は造れないはず。 (男性)
- 「人間の命も生物多様性に支えられている」という小学生でも知っている事実ですらわかっていない人間に我々は統治されているのです。 (男性)
- ジュゴンは自分の命を懸けて新基地を止めようとしたと思う。翁長知事と重なって、悲しみと怒りで一杯です。 (女性)
- 米ではジュゴンが生息しているところは開発できないのに、日本は米軍基地を造るのにジュゴンを殺している。 (男性)